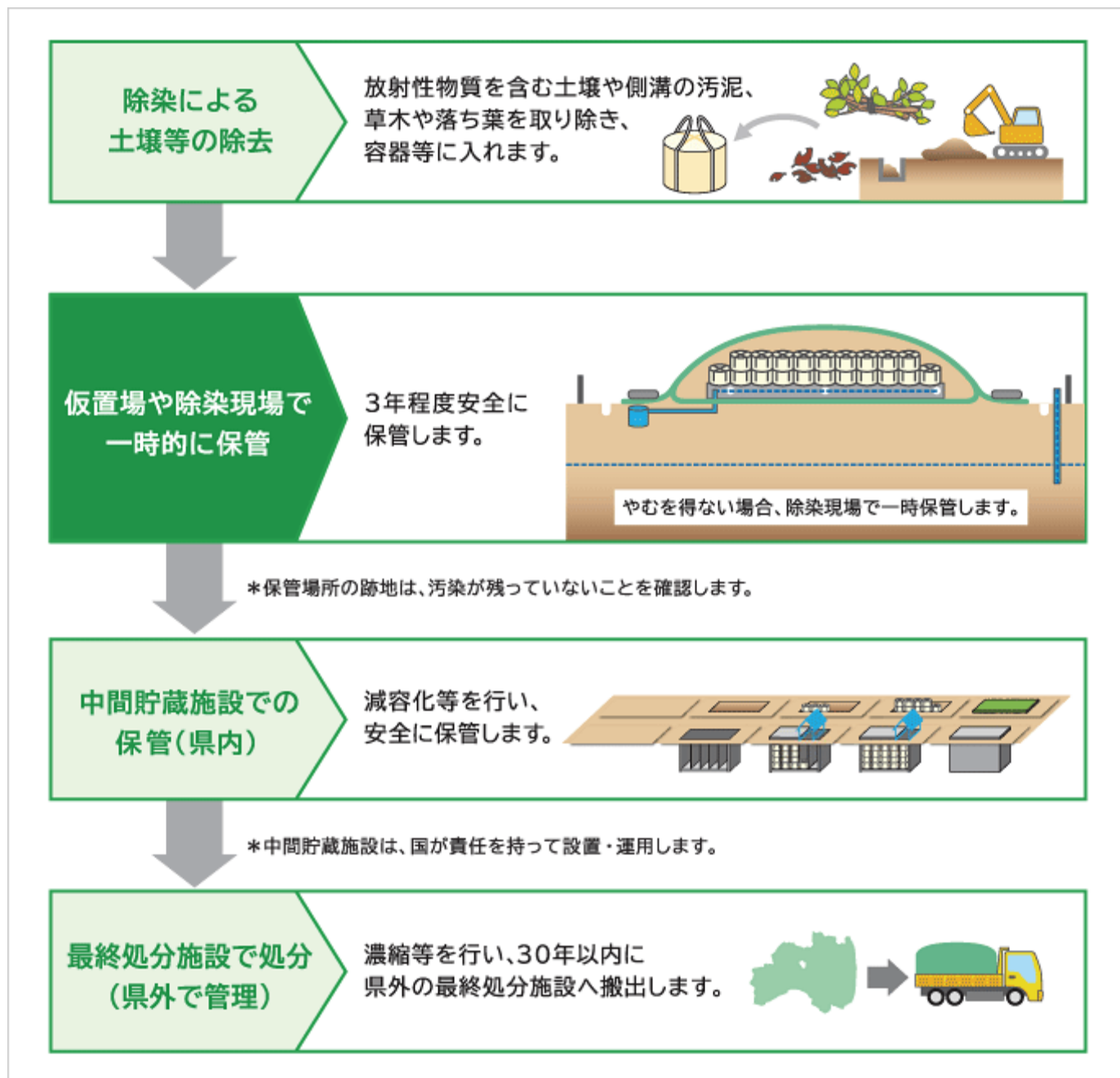


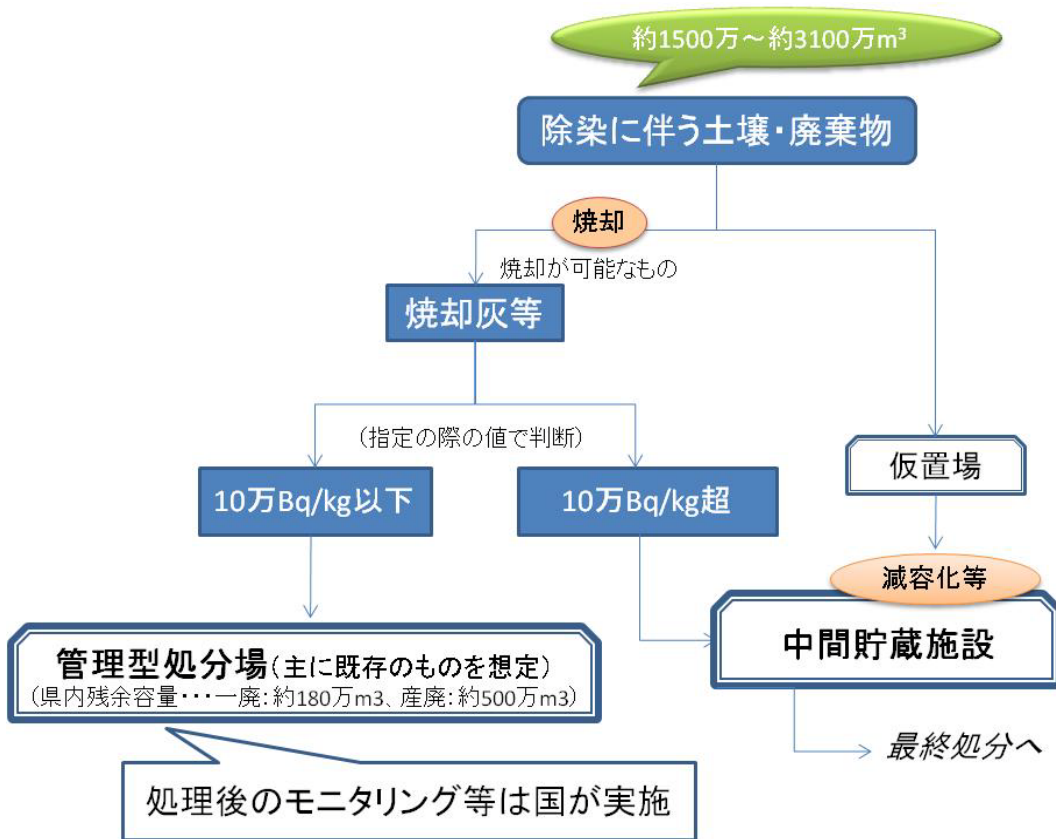
第2章 事故由来廃棄物等に関する知識

1 事故由来廃棄物等の種類及び処理フロー

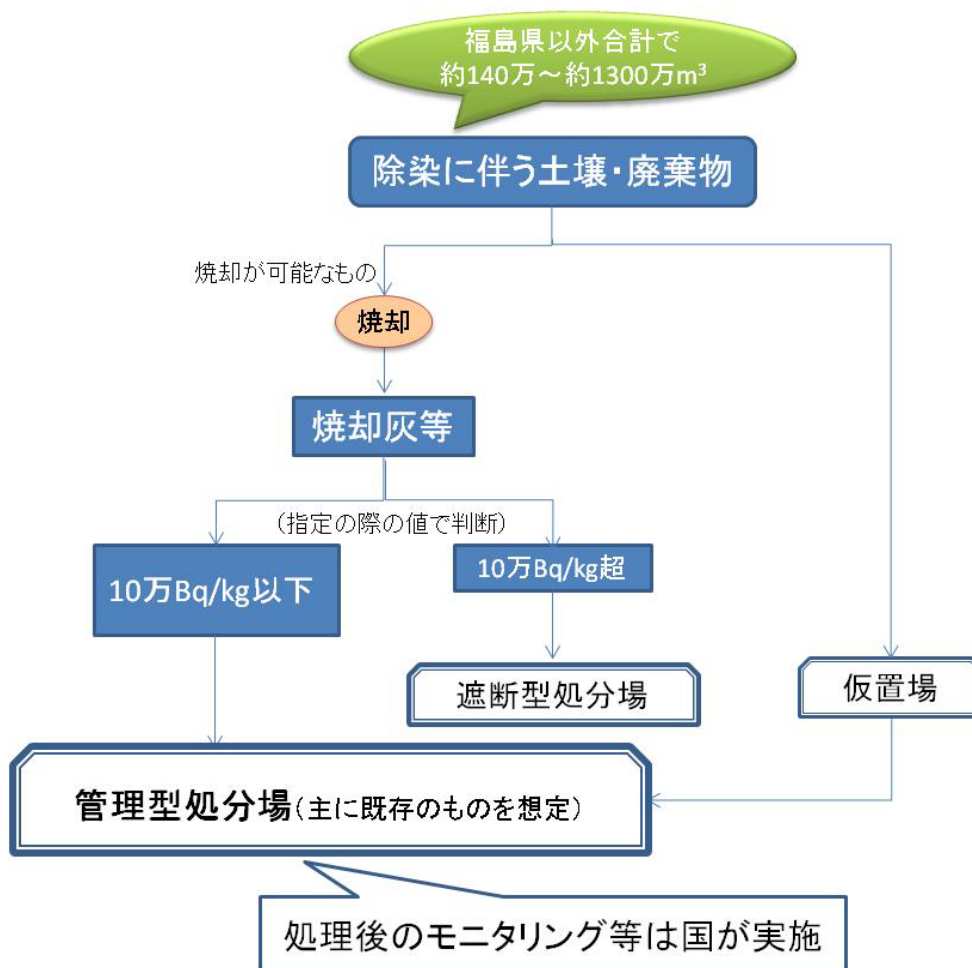
(1) 除染に伴う土壌・廃棄物



ア 福島県内の除染に伴う土壌・廃棄物処理フロー

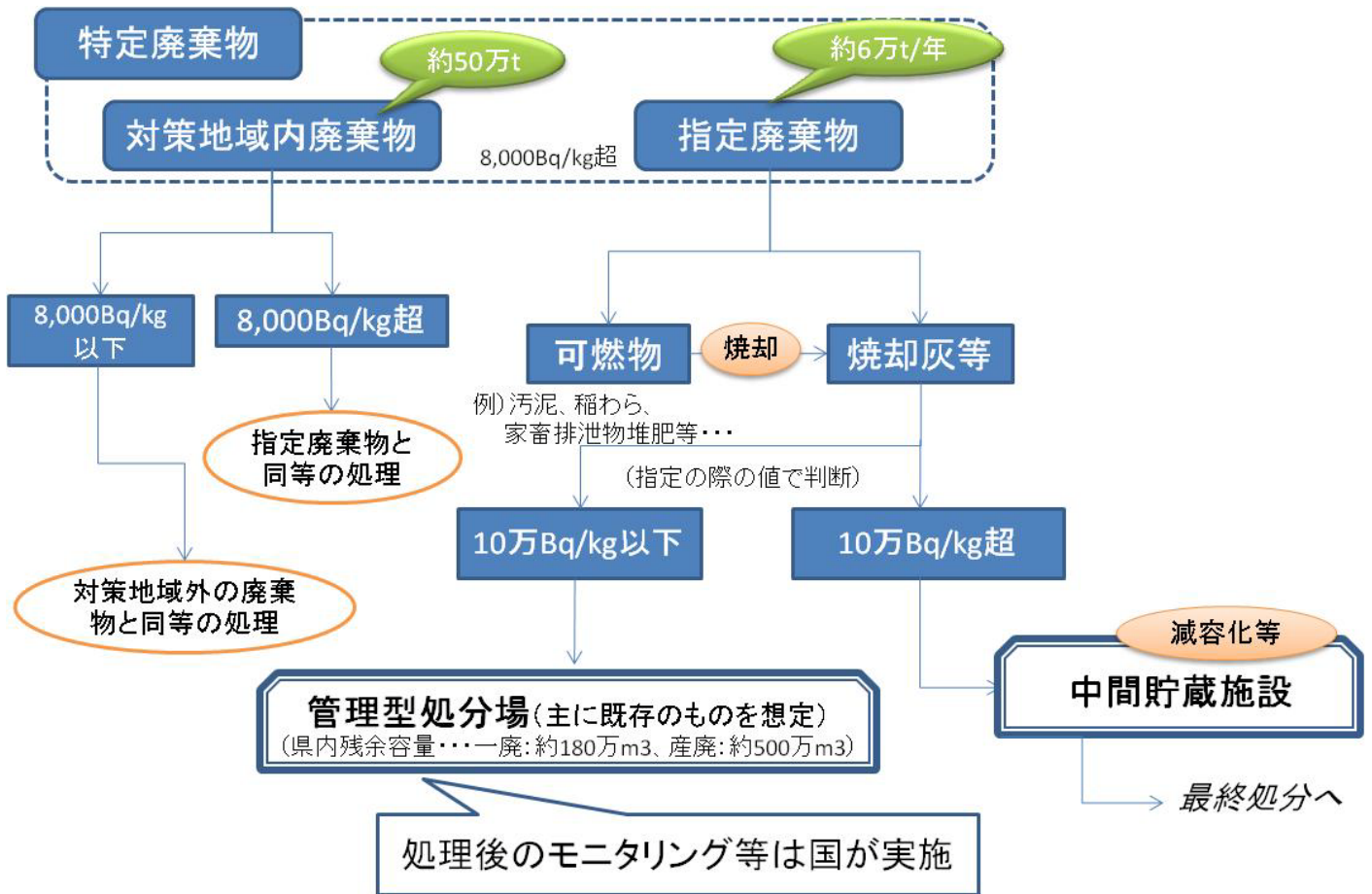


イ 福島県外の除染に伴う土壌・廃棄物処理フロー

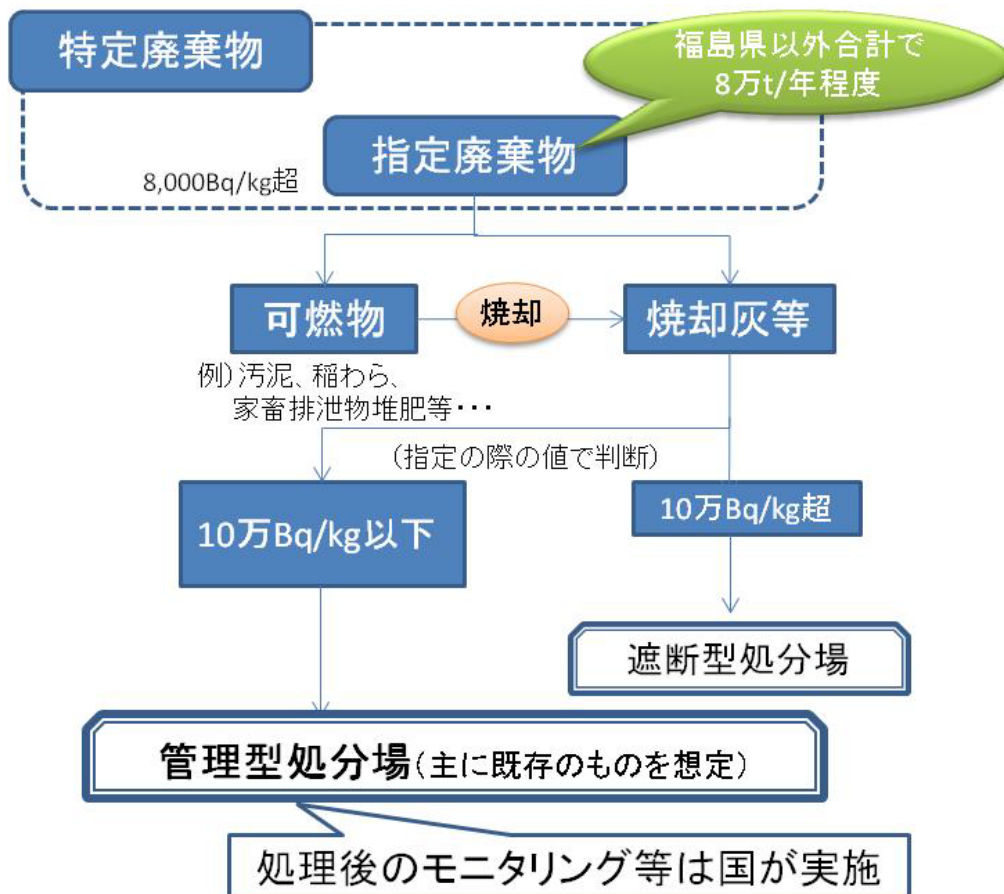


(2) 指定廃棄物

ア 福島県内の指定廃棄物等の処理フロー



イ 福島県外の指定廃棄物等の処理フロー



(3) 災害廃棄物の減容化（焼却）処理の概要

図-1 に災害廃棄物の仮設焼却炉による減容化（焼却）処理の流れを示します。

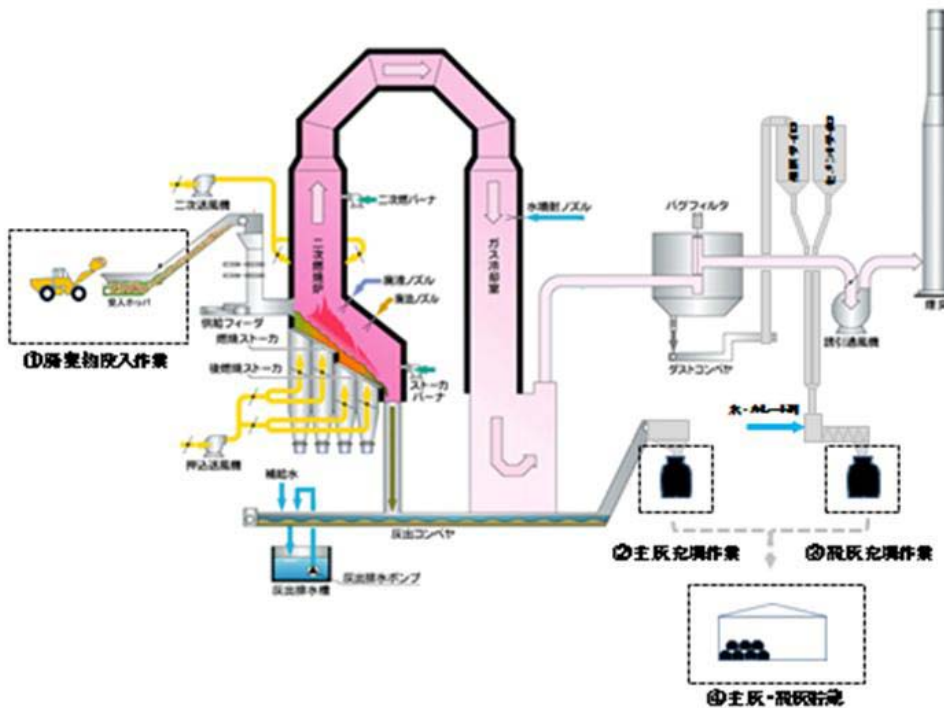


図-1 災害廃棄物の仮設焼却炉による減容化（焼却）処理の流れ

災害廃棄物は、仮置場に集められその場で、可燃物、不燃物に分けられます。

可燃物は、仮設焼却炉設置場内に持ち込まれ、焼却処理が行われます。以下に、仮設焼却炉場内の主な作業概要を示します。

仮置場から搬入された災害廃棄物は、搬入用のダンプを用いて、仮設焼却炉設置場内のダンピングヤードに投下されます。ダンピングヤードでは、作業者が、主に、ホイールローダを用いて、可燃性の災害廃棄物の混合等が行われ、受入ホッパに投入されます（図-2）。

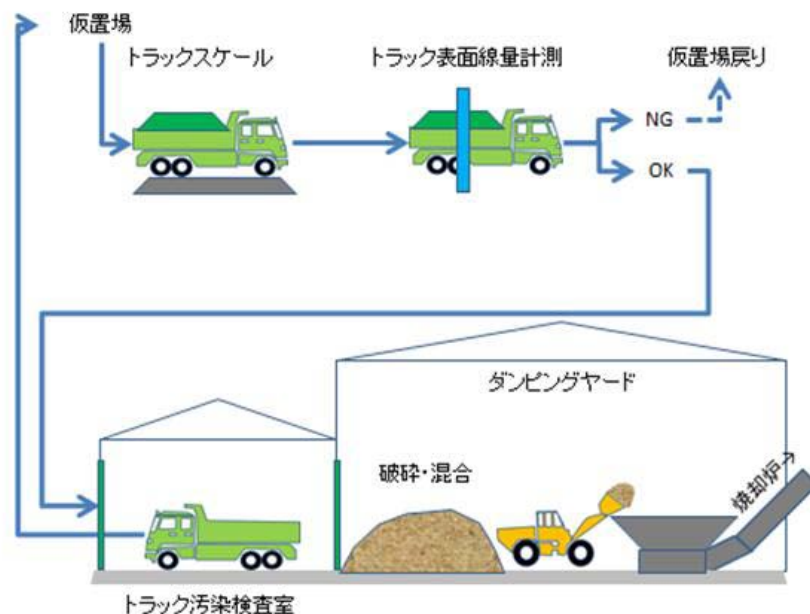


図-2 ダンピングヤードへの災害廃棄物の持ち込み及び処理

焼却炉での焼却処理により発生する燃え殻（主灰）は、自動的に灰出コンベアを介して、フレキシブルコンテナに充填されます。作業者は、一定量充填後、主灰ホッパからの主灰充填を停止し、フレキシブルコンテナの閉止措置、新品フレキシブルコンテナの主灰ホッパへの取り付けが行われます（図-3）。

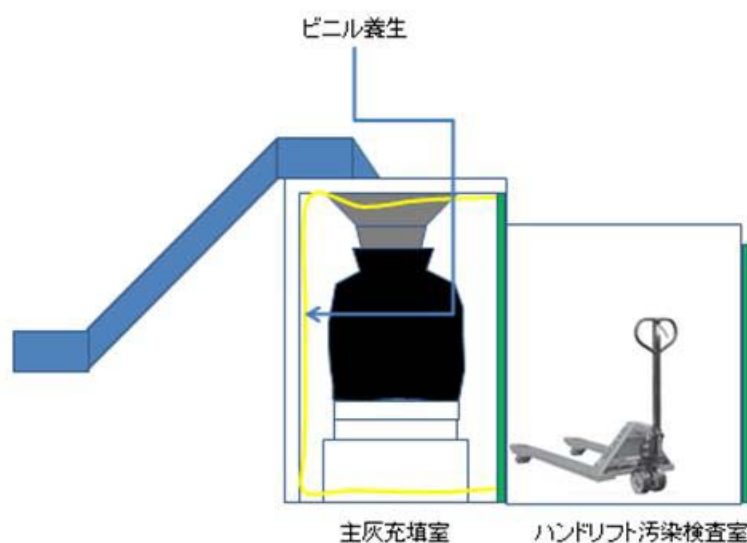


図-3 主灰のフレキシブルコンテナへの充填処理

また、焼却によって発生するばいじん（飛灰）は、バグフィルタで捕捉され、適時実施されるバグフィルタの逆洗によりバグフィルタ下部に集められ、ダストコンベアを経て飛灰サイロに回収されます。

飛灰サイロに回収された飛灰は、セメント、キレート剤、水と混合され、フレキシブルコンテナへの飛灰充填作業が行われます。作業者は、一定量充填後、飛灰とセメントの混合処理、フレキシブルコンテナ充填処理を中断します。次に、作業者によりフレキシブルコンテナの閉止措置、新品フレキシブルコンテナの飛灰ホッパへの取り付けが行われます（図-4）。

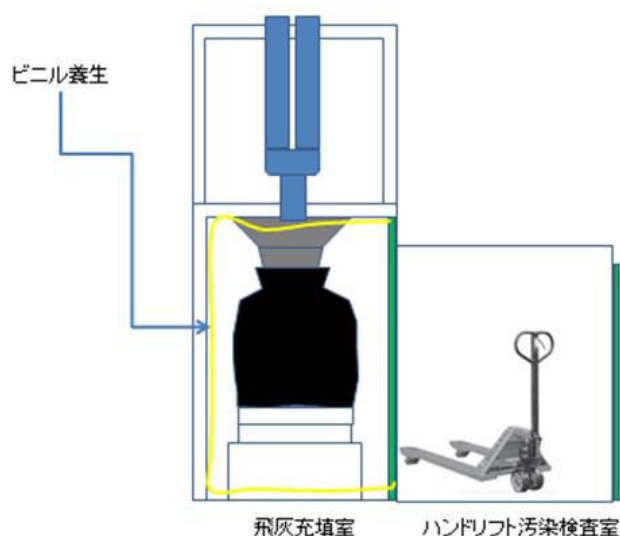


図-4 飛灰のフレキシブルコンテナへの充填処理

フレキシブルコンテナに充填された主灰、飛灰はハンドリフトを用いて各充填設備から搬出され、フォークリフトを用いて、仮設焼却炉設置場内の飛灰、主灰貯蔵棟で保管されます。また、適時、仮設焼却炉設置場外の仮置場に搬出され場外でも貯蔵されます（図-5）。

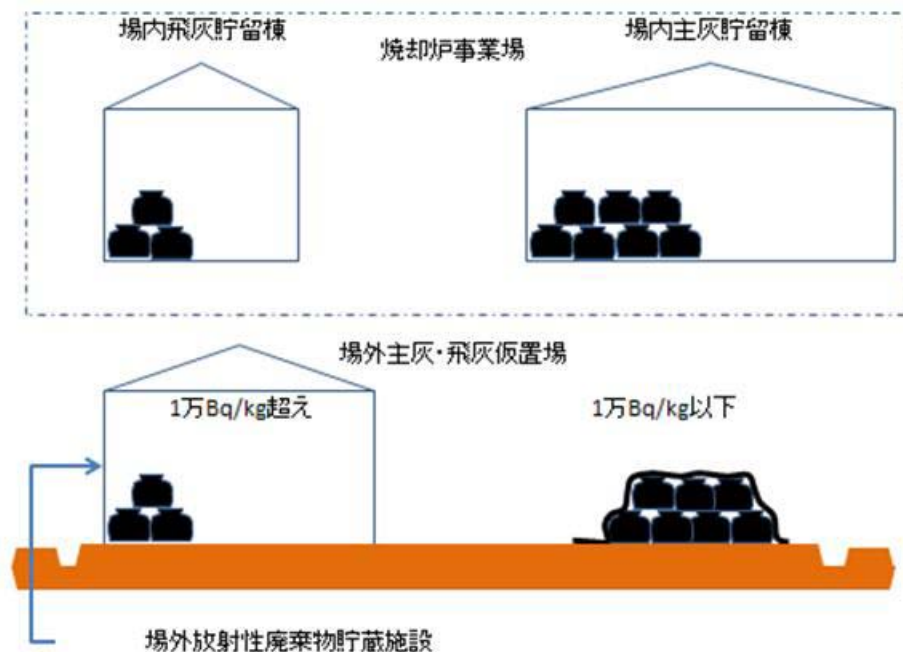


図-5 主灰・飛灰フレキシブルコンテナの貯蔵（場内、場外）

2 事故由来廃棄物等の性状

(1) 破碎処理の必要な物の例

・災害がれき



仮置場で不燃、可燃別に性状ごとに粗選別し、可燃物を前処理施設に搬入し破碎

・草本、木質系

①



ロールを搬入し重量を測定後、ラップ等を取り除き、裁断機で裁断又はチップパーで粉碎

・粗大ごみ系



仮置場で可燃のものを粗選別し、前処理施設に搬入し破碎

②



フレキシブルコンテナバッグなどに密封して搬入。



フレキシブルコンテナバッグを開封して取り出し、破碎機にて破碎

(2) 破碎処理の不要な物の例

・生活ごみ系



フレキシブルコンテナバッグ
や回収袋など形状で搬入
また、パッカー車等で搬入
するケースも想定

・汚泥系



フレキシブルコンテナバッグ
などに密封して搬入。
フレキシブルコンテナバッグ
を開封し、焼却炉へ投入

(3) 除染により発生した廃棄物の例

- 主として草本系（除染準備としての除草等で発生）、木質系（枝打ち等で発生）、汚泥系（側溝の汚泥除去等により発生）。
- 取扱いについては原則として指定廃棄物の場合と同様。
- フレキシブルコンテナバックなどに密封して搬入します。
- 草本、木質系は破碎処理を、汚泥系については脱水乾燥処理を行う場合があります。
- それぞれの場合の事例写真は以下のとおりです。

草本系



木質系



汚泥系（側溝の高圧洗浄実施状況）



フレキシブルコンテナに詰める作業

